

令和7年度全国学力・学習状況調査結果より 庄内管内の現状と、明日への一歩に向かって

今年度の全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。山形県の正答率、また、庄内管内の全国比は下記のとおりです。各校においても、結果を受けて分析したり授業改善の視点を話し合ったりしていることと思います。アクションプランの中間評価のご提出もありがとうございました。

本調査は、学習指導要領が求める育成を目指す資質・能力を踏まえ、教員による指導改善や児童生徒の学習改善・学習意欲の向上に役立てる視点で作成されています。調査対象は小学校6年生と中学校3年生ですが、対象学年の状況の分析にとどまらず、それまでの各学年での学習が「わかる・できる」ものとなって積み重なった力となっているか、そのような授業になっているかを振り返る指標となるものです。

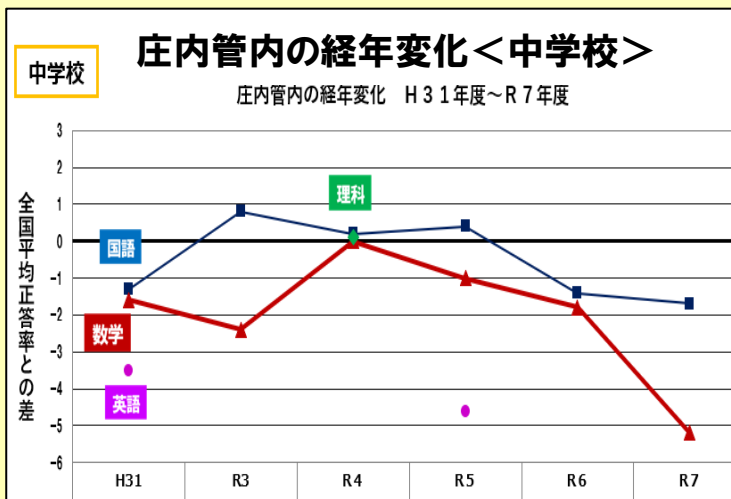
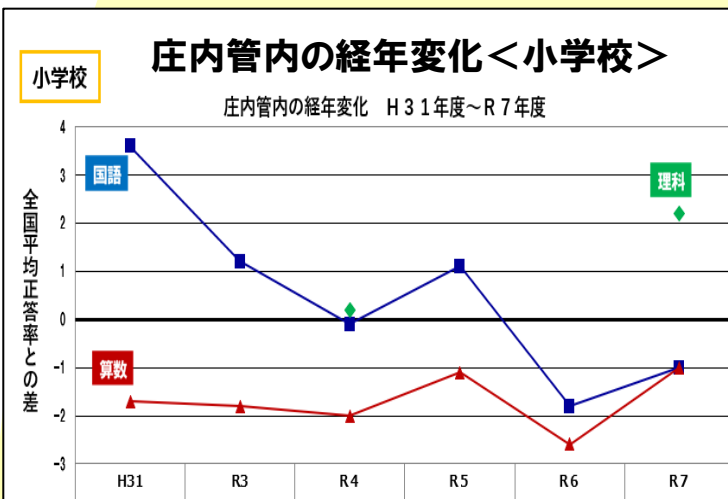
「該当する学年・教科担当」という枠を超えて全職員で問題にあたり、どのような力＝授業づくりが求められているのか、ぜひ各校において今一度研修の機会をもってくださいませようお願いいたします。

庄内の教科ごとの正答率

	国語		算数・数学		理科	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
全国	66.8	54.3	58.0	48.3	57.1	50.3
山形県	65	54	55	45	58	50.4
庄内 全国比 (昨年度)	ほぼ同値 (やや下回る)	やや下回る (やや下回る)	ほぼ同値 (大きく下回る)	大きく下回る (やや下回る)	大きく上回る	ほぼ同値

【庄内の表記について】

±0～1ポイント…ほぼ同値 ±1～2ポイント…やや上回る・やや下回る ±2ポイント以上…大きく上回る・大きく下回る
 中学校理科はIRTスコアで表示(文科基準スコア500)



質問紙から見えること

数値は「あてはまる」「ややあてはまる」の割合(%)

◎:庄内が全国を3ポイント以上上回る項目
 ○:庄内が全国を上回る項目

成果としての項目	小学校			中学校		
	庄内	山形県	全国	庄内	山形県	全国
国語の勉強が得意	◎66.2	65.0	61.4	46.6	53.5	51.4
国語の授業内容はよく分かる	○85.0	83.6	82.8	72.9	76.7	77.0
算数・数学の勉強が得意	58.3	58.1	60.3	○48.7	47.2	46.0
算数・数学の授業内容はよく分かる	76.5	74.6	78.3	68.4	67.3	70.3
理科の勉強が得意	◎86.1	84.7	78.4	◎57.9	57.9	50.7
理科の授業内容はよく分かる	◎94.5	92.1	88.9	○73.6	73.1	71.4
自分にはよいところがあると思う	○88.9	87.9	86.9	○87.0	87.8	86.2
学級生活をよりよくするために学級会で話し合い互いの意見のよさを生かして解決方法を決めているか	◎88.5	87.2	83.3	○85.5	87.0	84.3
先生は、よいところを認めてくれる	○94.2	93.8	91.9	○92.3	92.7	92.2
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人に相談できる	◎73.6	71.9	70.6	72.9	73.9	73.2
前年度に教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合ったか	◎98.3	97.3	93.5	◎90.9	84.1	86.9
前年度に教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行ったか	○98.3	98.6	96.6	90.9	89.4	91.6

調査結果から…

児童生徒は自分のよさを感じ、「勉強が得意・分かる」と感じています！
 先生方も授業や学級の課題解決に向けて努力していることが分かります！

庄内の子どもたち・先生方の日々のがんばりを

さらなる確かな力につなげるために、再確認したいこと

- ➔ 指導事項に基づいた学習ゴールを設定し、児童生徒と共有していますか？
- ➔ 子どもたちは、学習内容を確実に自分のものにしていきますか？ 次ページへつづく

課題としての項目	小学校			中学校		
	R7	R6	R5	R7	R6	R5
平日、学校の授業以外に1時間以上勉強している	63.7	63.4	66.0	▲48.2	49.3	56.8
週末、学校の授業以外に2時間以上勉強している	26.7	23.1	29.7	▲25.8	31.6	39.6

価値観の多様化、SNS利用を含む急速なデジタル化等、めまぐるしく社会が変化している渦中にあり、家庭での学習時間をどう考えるか難しいところですが、小中学校ともに時間が減っていることは事実です。

家庭学習のみならず、これから生きる子どもたちにどのような資質・能力をつけたいのか、そのために学校で何をすべきなのか、児童生徒・保護者にどんなメッセージを送るのか、社会の変化の激しい今、改めて全職員で語り合い、ビジョンを共有する必要があるのではないのでしょうか。

令和8年度調査予定 令和8年4月23日(木)

小6→国語・算数 中3→国語・数学・英語(英語は4月20日の週内で分散予定)

調査問題から見える「授業改善のポイント」

全国学力・学習状況調査から分かることは、学力や児童生徒の実態の一面かもしれませんが、たとえ一面であっても、それまでの学びの積み上げの状況を読み取ることができます。また、調査問題は、学習指導要領で求められる「資質・能力」をもとに作成されています。調査問題を解いたり分析したりすることで、今、自分が担当している学年や教科で何を指導すべきか見えてくるはずですよ。

調査の該当学年や
該当教科の担当
だけがかかわるもの
ではありません。
ぜひ、全職員で
研修を！

国語

調査問題から見えるつまずきの一例

- ◇目的に応じて必要な情報や材料を見つけることや、根拠を明確にして自分の考えをまとめたり、効果的な表現を工夫したりすること

👉「指導事項」を各学年で確実に指導し、教材文を通して学んだ「指導事項」を実際に使う機会を設けていますか？

💡「指導事項」を確認する
「学習指導要領解説」付録で系統性をチェック！
(小学校 p196~, 中学校 p166~)

💡国語の用語（段落・要点・情景 など）を日常的に使う
授業で意味を押さえたら、学習の基盤となる共通言語として、積極的に使っていきましょう。

💡多様な言語活動を経験させる
複数の情報（図や表などを含め）を扱い、行ったり来たりしながら必要な情報を得たり自分の考えをまとめたりするような単元も取り入れてみましょう。

算数・数学

調査問題から見えるつまずきの一例

- ◇機械的な計算や操作はできても、「見方・考え方」を働かせているか、と言われると・・・
- ※本質を捉えていない→ 数直線上の「3分の1」が分からない…
ジュースの量が変わると濃度も変わる？

👉単元のなかに、数学的な見方・考え方を働かせる数学的活動を設定していますか？

💡概念や原理・法則、用語の意味や使い方を正しく理解させる
「計算ができる＝概念を正しく理解している」とは限りません！「どのように使うのか」という「方法知」も含めた概念等の理解を目指しましょう。

💡複数の情報を扱いながら捉え直したり、考察の範囲を広げて新しい知識や理解を得たりしながら自分の考えを表現するような活動を設定する
単元構成を工夫して、多様な問題場面にふれる時間を確保していきましょう。
小中学校ともに、「学習指導要領解説」には各学年の内容の最後に「数学的活動」の例があります。
改めて一読してみるのはいかがでしょうか。

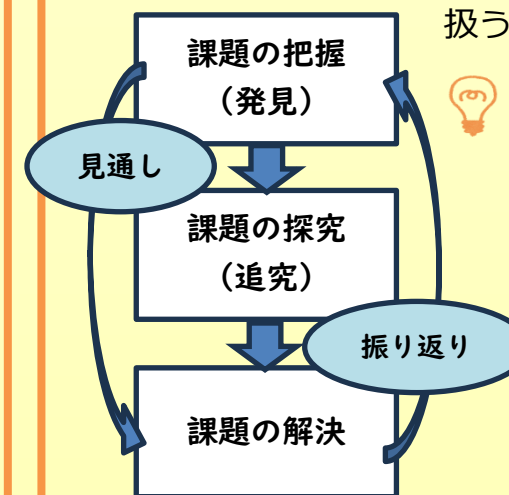
理科

調査問題から見えるつまずきの一例

- ◇観察・実験などを通して、概念や原理・法則を理解し体系化していくこと
- ◇見通しをもって観察・実験を行い、結果を解釈し表現すること

👉観察や実験の結果を分析して解釈・考察するなどの、科学的な「探究の過程」のサイクルが回っていますか？

💡見通しをもった学習計画を立て、「探究の過程」を繰り返す
「学習指導要領解説」（中学校 p9）
探究の過程は、必ずしも一方向ではありません。行ったり来たり、繰り返したり、または、一部のみ扱うこともあります。



💡結果を多様な形式で表したり、科学的な概念を使用して説明したりする言語活動を設定する。
図・表・グラフなどの多様な形式で表したり、レポートにまとめたり、議論したり…、学習活動の工夫を！

どの教科でも取り入れたい 授業改善ビフォーアフター

- ☆単元の配当時間をフルに使って「教科書を終わらせた！」 → 「教科書で」学んだことを確かめたり発展させたりする時間を含めて単元づくりしていませんか
- ☆ICT派!? アナログ派!? → 例えば、ICTで資料や考えの可視化や共有を、自分の考えはしっかり書かせよう…それぞれの「いいとこどり」しませんか
- ☆とりあえず「振り返り」を書かせてはいるけれど… → 「何が」分かったか、「どうしたら」分かったか、振り返りにこだわっていませんか
- ★確かな学力を支える基盤として → 日々の授業でこそ、「生徒指導4つの視点」を意識していませんか

